

# 令和3年度 第1回学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和3年10月21日 14:00～15:00

場所：5階カンファレンスルーム

出席者：学外

- A 高等学校教諭
- B 山口県看護協会会長
- C 山口県介護福祉士会会長
- D 看護学科実習病院 看護部長
- E 介護福祉学科実習施設長
- F YIC 看護福祉専門学校看護学科保護者
- G YIC 看護福祉専門学校介護福祉学科保護者

欠席者：なし

出席者：学内

- H 校長
- I 副校長
- J 事務長
- K 付帯事業推進課長
- L 教務統括兼看護学科長
- M 教務課長兼介護福祉学科長
- N 教務課長補佐
- O 書記

## 1. 校長挨拶

4月から着任。昨年度からのコロナ禍でこれまでに経験のない影響を受けた。教育の質をおとすことがないよう、遠隔授業のスキルの向上等に努めてきた。防府市の厚意により、学生のワクチン接種も早期に完了することができた。教育の質を担保するため、本日は忌憚のないご意見を頂きたい。

## 2. 委員自己紹介

## 3. 議事

### 【議題】

#### (1) 2020年度専門学校YICグループ学生アンケートに関する調査結果・・・資料I

I : 資料Iをもとに説明した。

質疑応答なく、議題(1)について、全員一致で承認した。

#### (2) 2021年度入学生アンケート調査結果・・・資料II

I : 資料IIをもとに説明した。

質疑応答なく、議題(2)について、全員一致で承認した。

#### (3) 令和3年度重点項目進捗状況・・・資料III

I : 資料IIIをもとに説明した。

質疑応答

A委員：介護福祉学科の休・退学者はいるのか。

I : 0名である。

C委員：介護福祉学科はキャリアサポートを実施しているのか。

I : 介護福祉学科は現在実習中であり、実習終了後、キャリアサポートを活用しながら本格的に就職活動が始まる。

B委員：最近の看護学生の傾向として、指導者からコミュニケーション能力の低さや生活体験の乏しさ等がある。看護師になるには適性が必要だが、休・退学者は適性に問題があったのか。

I : 本当は看護師になりたくなかったと言う学生もおり、気持ち、学力がついていかなかった。

- L : 学生のコミュニケーション能力低下の問題については、学校としても対応に苦慮している。
- N : 志望動機が明確でない学生がおり、学習時間の短さに関連している。オープンキャンパス等で、入学後の学習の厳しさも伝えていく必要がある。  
コミュニケーションに関しては、ビジネスマナーに関わる報連相については、しなくてはならないことという意識づけをしている。コミュニケーションの授業では、上級生や教職員を相手に演習を行ったり、コミュニケーション場面を録画し、振り返りを行う等している。
- B 委員：看護師不足の解消のため、学校には期待している。
- H : 入学後間もない時期での休・退学は、ミスマッチが多く、防ぐことが難しい。長期的な対策が必要。
- A 委員：高校でコミュニケーション技術を担当しているが、言葉がキャッチできないことが問題である。話すことは経験でできるようになるが、まず聞く力をつけることが大事である。  
休・退学者は、コロナの影響もあるのか。
- I : コロナの影響はない。
- F 委員：看護師として働いているが、周囲の人とコミュニケーションが少ないと退職につながる。
- G 委員：コミュニケーション能力の低下は感じている。成績よりも社会では大事になる。
- A 委員：読書の時間が減ったことも影響しているのではないか。  
民法の改正で、現在の高校2年生は、来年4月から成人になっていくことに不安をもっている。
- H : 来年の4月からは、保護者会という名称は使えなくなり、成績の送付も本人の了解が必要になる。皆さんがどのような認識をもっているのか聞きたい。
- A 委員：学校、地域、家庭で指導の方法も変えていかなければならない。

議題（3）について、全員一致で承認した。

#### (4) その他

特になし

- J : 次回の会議は、来年の2月を予定している。